

「三鷹市コミュニティ推進計画2027（案）」に係る市民意見への対応について

【凡例】

- ①計画に盛り込みます・・・・・・・・意見を概ね提案どおり又は趣旨としてに盛り込むもの
- ②事業実施の中で検討します・・・・・・計画へ盛り込まないものの、事業実施段階で判断するもの
- ③既に計画に盛り込まれています・・・・・・既に意見が計画に盛り込まれているもの。既に意見の趣旨が計画に反映されているもの
- ④対応は困難です・・・・・・・・趣旨の反映を含め計画に盛り込むことが困難なもの
- ⑤その他・・・・・・・・その他の意見など

パブリックコメント提出状況

人数： 2名

件数： 13件

（対応の内訳）

①計画に盛り込みます： 2件

②事業実施の中で検討します： 2件

③既に計画に盛り込まれています： 2件

④対応は困難です： 3件

⑤その他： 4件

※パブリックコメントによる市民意見については、一部抜粋又は意識して掲載しています。

No	計画（案） 該当ページ	該 当 部 分	市 民 意 見 ※	対 応 の 方 向 性	
1	P5	1. 4 計画期間	P5「計画期間」における進捗報告： 個別事業などで完了年次等の記載が多いが、本個別計画の進捗は年次単位で市民に報告されるのでしょうか。 また、それはどのような形式でしょうか。	⑤その他	本計画は、三鷹市基本計画の策定と同時期に連動して改定することとしており、改定年度である令和9年度に本計画で設定した数値目標の達成状況等をお示しする予定です。
2	P7	2. 1 三鷹市のコミュニティの現状	P7 三鷹市のコミュニティの現状のうち、「市民の地域活動の現状」： 「参加したいと感じている市民の割合＝23.6%」は、正確には、「活動している＝12.6%」と「今は活動していないが今後活動したいと考えている＝11.0%」の2回答の合計なので正確に注記すべきだと考えます。 この数値の課題は、平成27年調査比で7.2%も減少（30.8%→23.6%）し、かつ20代～40代で実際に活動している割合が低いことです。この流れに歯止めをかけるには、20代～40代世代で活動意思の有る方に活動に参加して頂くことが持続的な推進への最大課題ではないかと思えます。これらを明記した方が良いと思います。（他の3領域の現状は、トレンド表記なのに、これだけはスポット表記で統一感がないのと課題表記もないため）	④対応は困難です	P7「市民の地域活動の現状」は、P19「指標及び数値目標」で本計画全体の指標として設定しているため、分かりやすさの視点から参加の意向を示す二つの数値を取りまとめて表記しています。 また、地域コミュニティの年齢構成は多様であることから、本計画では特定の世代を対象を限定せず、幅広い世代の方々に地域活動への関心を高めていただくのと同時に、デジタル技術の活用促進などを通じて、活動の意思のある方々が参加しやすい仕組みを浸透させていくことを目指しています。

No	計画(案) 該当ページ	該 当 部 分	市 民 意 見 ※	対 応 の 方 向 性	
3	P8	2. 2 コミュニティ行政の課題	P8 コミュニティの高齢化・固定化、担い手不足：コミュニティ創生基本方針にも列記している「今は活動していない方が活動する条件」の上位3項目から導き出した、「誰もが参加しやすい雰囲気づくりや多様なライフスタイルに配慮する必要がある」は重要であり、追記した方が良いと思います。	③既に計画に盛り込まれています	P8「2. 2 コミュニティ行政の課題」の「コミュニティの高齢化・固定化、担い手不足」に、ご意見と同様の主旨として「それぞれのコミュニティが組織の在り方や活動形態・内容を見直す必要がある」ことを記載しています。
4	P19	3. 3 指標及び数値目標	P19 地域コミュニティやコミュニティ活動に参加したいと感じている市民の割合：市民満足度調査毎に当該数値は単調減少している中で、これに歯止めをかけて「現状の23.6%から目標値として30.0%を目指す」のは意欲的で、是非達成してほしいと願います。 ただ、目標値の30.0%の時期や測定方法について明確な説明がありません。令和9年度中に市民満足度調査を実施し、測定するということで良いのでしょうか。これらは明記して頂きたいと思います。	①計画に盛り込みます	本計画の数値目標については、市民満足度調査における平成23年度からの減少推移をもとに設定しています。 本計画では、計画年度を令和6年度から令和9年度としていることから、ご意見を踏まえ、数値目標の達成時期として計画の最終年度を記載します。 なお、数値目標の達成状況は、次期三鷹市基本計画（令和10年度改定予定）策定に向けた市民満足度調査により計測予定ですが、現時点で同調査の具体的な実施時期は未定となっています。
5	P19	3. 3 指標及び数値目標	P19 地域コミュニティやコミュニティ活動に参加したいと感じている市民の割合：R9年度に30.0%を達成するには、a)10代の意欲のある層（R4年度調査では29.3%と非常に高い割合）に実際に活動に参加してもらうのと、b)現状の23.6%より低い、20代から40代の層の市民の当該割合を高めることが必須だと思います。 施策や個別事業をみても上記a)、b)を主目的とした施策や個別事業が見当たらないのですが、a)、b)に対応する施策等は本個別計画には不要とお考えなのでしょうか。	③既に計画に盛り込まれています	ご意見いただいた各年齢層に対しては、施策1「地域のハブとなるためのコミュニティ・センターの機能拡充」及び施策3「デジタル技術の活用による地域活動への参加の促進」にもとづく個別事業の実施により、コミュニティ活動等への参加を促進していきたいと考えております。
6	P22	3. 4 施策の柱に基づく個別事業	P22 施策1「地域のハブとなるためのコミュニティ・センターの機能の整備」：単純な間違いだと思いますが、「地域のハブとなるためのコミュニティ・センターの機能の整備」ではなく「機能の拡充」だと思います。	①計画に盛り込みます	ご指摘を踏まえ、修正します。

No	計画(案) 該当ページ	該 当 部 分	市 民 意 見 ※	対 応 の 方 向 性	
7	P22	3.4 施策の柱に基づく個別事業	新川中原コミュニティ・センターのプールを早くつくってください。よろしくお願いします。 今、夏は暑く長い期間があるので、夏は長い期間営業が出来ます。	⑤その他	コミュニティ・センターの機能整備については、P22に「個別事業4 時代に即したコミュニティ・センターの整備」の内容を記載しています。ご意見いただいた新川中原コミュニティ・センターのプールについても、改修の選択肢を残しつつ、地域内でのプールの適正配置や多世代が利用可能な施設への機能転換も含め、関係団体等とも意見交換をしながら検討いたします。
8	P29～32	3.4 施策の柱に基づく個別事業	P29 施策4 地域の力の再生にむけた仲介支援や活動支援の強化： コミュニティ推進における重要課題である、地域コミュニティの活性化や比較的若い世代の参加や人材育成には、市内や近隣の大学との連携が大きな意味を持つと思います。杏林大学の地域交流活動やICUのService-Learningなどは効果を出していると実感しています。 しかしながら、本個別計画には大学との連携については全く言及がありません。大学との連携は、30.0%の数値目標への貢献は大きく、個別事業として加える意味があると思いますが、如何でしょうか。	②事業実施の中で検討します	本計画で設定する数値目標の達成に向けて、大学との連携は非常に意義があると認識していますが、大学との連携は本計画の目的を達成するための手法の一つであるため、個別事業として記載の予定はございません。 なお、施策3「デジタル技術の活用による地域活動への参加の促進」や施策4「地域の力の再生に向けた仲介支援や活動支援の強化」の個別事業を進める中で、大学生の視点やアイデア等を取り入れたコミュニティ活動の支援など、大学との連携についても検討してまいります。
9		地区公会堂	全般「地区公会堂」： 地区公会堂の利用者は半減する中、デジタル化/オンライン予約以外「地区公会堂に関する言及はない」ですが、地区公会堂の将来はどう計画されているのでしょうか。 集合住宅に住む市民が増え、町会・自治会の参加率は近い将来、高い確率で25%を下回ると思われる中、老朽化が進む公会堂の役割を見直す必要はないでしょうか。 何割かの公会堂は廃止し、利用率・利便性の高い公会堂はコミュニティ・センターとHub and Spokeとするなど、2極化を推進する必要はないでしょうか。 ※Hub and Spoke（ハブアンドスポーク）…中央のハブ（拠点）となる施設が中心的な役割を果たし、周囲のスポーク（支線）となる複数の施設や拠点と効率的に連携すること。	④対応は困難です	現在、町会・自治会の加入率や地区公会堂の利用者数は減少傾向にありますが、各コミュニティの活動拠点として身近な地域に地区公会堂のような施設があることは既存のコミュニティの維持や新たなコミュニティの創出等に寄与すると考えています。そのため、計画期間内に地区公会堂を廃止する予定はなく、施設の老朽化に対しても計画的な修繕や工事等により維持保全を図っていくほか、一部の施設に導入しているインターネット予約システム・スマートロックをはじめとしたデジタル技術の活用により、施設の利用を促進していきます。

No	計画(案) 該当ページ	該 当 部 分	市 民 意 見 ※	対 応 の 方 向 性	
10		計画全体	全体「推進体制」： コミュニティ推進計画2027は、個別計画としては新規でもあるので、推進体制と責任者を明確にして頂きたいと要望します。 総責任者＝市長、推進責任者＝生活環境部長、推進事務局＝コミュニティ創生課なのでしょうか。	④対応は困難です	本計画では、目指す地域の姿として、多様なコミュニティが自主性と主体性を持って緩やかにつながり、網の目のようなネットワークを形成し連携・協働が進むことで、コミュニティの活性化や地域課題の解決の実現を目指すこととしています。そのため、特定の個人や団体等を推進体制の主体として明記することは避けています。
11		計画全体	全体「推進体制」： 環境系で言う「みたか環境活動推進会議」のような、市民や団体等を含んだ構成で横の交流と推進を目的とする「推進会議」の設置が必要ではないかと考えます。	②事業実施の中で検討します	住民協議会と町会・自治会等が意見交換を行う地域内諸団体連絡会をはじめとした交流や情報共有等を目的とした既存の仕組みが複数ありますが、P29「施策4 地域の再生に向けた仲介支援や活動支援の強化」の個別事業を進める中で、ご意見の内容についても検討してまいります。
12		計画全体	上位方針「第5次三鷹市基本計画」の展開： 上位方針「第5次三鷹市基本計画」P124の「第1 コミュニティ創生と参加と協働」にある「達成度を測る指標(KPI)の目標値)」は、本計画にて展開・管理する必要はないのでしょうか。	⑤その他	本計画では、「三鷹市基本計画」の趣旨を踏まえつつ、「三鷹市コミュニティ創生基本方針」で定めた4つの施策の柱に基づく個別事業を設定しています。これら個別事業の達成度を測る指標(KPI)の設定に当たり、より実効性の高い指標となるよう、基本計画で定めた指標(KPI)を見直し、各個別事業の記載の中で指標を定めています。
13		その他	その他「個別計画の推進」： 本計画は個別計画としては新規であり、色々な機会等を通して、当該計画に対する市民や関連団体等の理解と協力を得ることが重要だと思います。R7年度は、三鷹市民大学総合コースの1分野として「コミュニティ」が企画され、持続可能な未来のまちづくりを学習します。地域コミュニティに関心の強い学習者が多く参加されると予想されるので、本個別計画および関連計画等について説明の機会を設けてはどうでしょうか。関心の輪を広げることは重要です。	⑤その他	令和7年度の三鷹市民大学総合コースにおける「コミュニティ」の学習テーマの受講者を対象として、本計画について説明機会を設ける予定であり、幅広い市民や団体の皆様に三鷹市のコミュニティに興味・関心を持っていただきたいと考えています。